

廃用症候群の勉強会



平成 21 年 9 月 10 月に砥部病院職員全体に、「廃用症候群～悪循環から良循環への転換」の勉強会をしました。講師は、中城有喜センター長でした。以下内容を要約してお伝えします。

まず砥部病院認知症ケアの理念である「その人らしさを最大限に尊重し、そのところに寄り添うケア」＝「パーソン・センタード・ケア」について復習の意味で説明がありました。

次に 2001 年（平成 13 年）WHO（世界保健機構）が出した「ICF モデル（国際生活機能分類）」を、現在の砥部病院の状況にあてはめ、わかりやすく説明しながら、職種を越えて私たちが、日常の業務を考える指針を示してもらいました。「入院することで、その人らしさははく奪される」＝「安静の強要」、「病院にはびこる 3 つの病気」＝「孤独・退屈・絶望」が「本来失われるべきでない機能が、適切に使わなくなったために機能しなくなった状態」＝「廃用症候群」という結果を起こしてしまいます。たとえば安静による筋力低下は、1 週間で 20%、2 週目で 40%、3 週目で 60%にもなるというデータがあります。1 日の安静で低下した体力は、回復に 1 週間かかり、1 週間の安静で低下した体力は、回復に 1 か月かかるというデータもあります。これが心身ともに私たちに身近なさまざまな症状としてあらわれてきます。

この症状が病院の中で起こらないようにするために、治療の場を生活の場だと考え、「生活モデル」が提唱されています。生活を活性化し、活動の質、質の向上に正面から取り組むことにより、「廃用症候群」へ陥る悪循環を断ち切り、良循環に変換させるのです。

最後にこころのつながりを持つために「明日からできること」として、挨拶のかわし方、お声のかけ方について具体的に提案がありました。

以上の内容でした。砥部病院を利用されている方の状況、そして状況に合わせた対応を大枠から整理し、聴いた後から、取り組もうという意欲がわきました。早速理念の基に今行っている活動を整理し、ひとりひとりにどのような活動をしているかを記録し、活動の質を高めていくことをセンターでは取り組みはじめています。



11 月のもよおし

平成 21 年 11 月 30 日（月）午後 2 時から
センター 5 階でフルート演奏会をします。お楽しみに

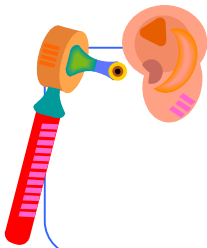
秋祭りがありました

10月6日7日は、砥部町秋祭りでした。例年通り「一木獅子舞保存会」から獅子舞、そして7日当日はお神輿がやってきました！中城院長は、獅子舞、そして



神輿の上にと、祭りに参加、神輿は倒れるというハプニングもありましたが、怪我もなく、縁起なおしに再度乗り直し、さらに祭りを盛り上げました。

この他、アコーディオンの時間は、10月は祭り月間とし、三橋美智也「松山祭りばやし」北島三郎「まつり」美空ひばり「祭りサンバ」などの曲でにぎやかでした。また新居浜太鼓祭り、西条太鼓祭りのビデオも上映し、各地の祭りの風景も当地ご出身の方に解説していただきながら、楽しみました。



平成21年12月聴こえ・補聴器相談

補聴器の調子や補聴効果についてご相談したい方は、事前にご連絡ください。第1月曜日午後にご相談日を設けております。

感染症対策にご協力ください。

本冬はインフルエンザの流行が懸念されています。予防接種は、入院されている方、職員は全員受けていただいております。また体調がすぐれないときの御面会にご遠慮いただき、咳エチケットにご協力ください。

KUMAのつぶやき

秋は食べ物もおいしい季節ですね。栗の実を持ってきて、塩ゆでし、各階で食べました。どのように食べるかから始まり、ご両親の思い出、茹でたての栗が、みなさんの「里の秋」の話を広げてくれました。



編集：砥部病院高齢者こころのケアセンター 相談室（文責 武田）

相談員：青木（512）・岡田（513）・武田（516）

何かお気づきの点がございましたら、ご相談ください。